

人口移動による 上海方言の弱化現象に関する一考察

虞 萍

はじめに

2008年、上海市の常住人口は1888.46万人まで上昇した。うち、居住期間が半年以上の外来者は517.45万人を占めて、居住期間が半年以下の外来者を含むと、すでに642.27万人に達することになる。つまり、目下、上海市では、三人に一人は外来者である¹。上海方言²はほとんどの外来者にとってはわからない言葉であるため、近年、上海市市民³は日常生活の公共の場（例えばスーパー、レストラン、美容院、遊園地など）では、方言の使用を控えなければならないことが多くなった⁴。

一方、1956年2月6日「関于推广普通话的指示」⁵（「共通語の推進に關

-
1. 上海市統計局編『上海統計年鑑(2009)』中国統計出版社、p.35。本論で言及している「外来者」とは、戸籍の転入がない外部、特に農村から上海市に移住している人のことを指す。
 2. 中国大陸では、吳方言区、粵方言区、閩南方言区、湘方言区、客家方言区、贛方言区という七つの方言グループに区分されている。本論で論ずる「上海方言」は吳方言に属する。なお、上海市には上海方言、松江方言、練塘方言、嘉定方言、崇明方言がある。これらの方言の分布は錢乃榮の『上海語言發展史』（上海人民出版社、2003年、p.395付録）に詳しい。
 3. 本論で言及している「上海市市民」とは、上海市の戸籍があり、かつ上海市に常住している人。上海市外来流動人口管理政策に基づいて、戸籍を上海市に変更した人、いわゆる「新上海人」は含まない。
 4. 2009年9月5、6日と2010年2月14、15、19日、筆者が30名の上海市市民（市街地14名<男性6名。うち、10代1名、20代2名、30代2名、40代1名。女性8名。うち、20代1名、30代1名、40代1名、50代2名、60代2名、80代1名>。近郊地区16名<男性10名。うち、20代2名、30代1名、40代2名、50代5名。女性6名。うち、30代1名、40代1名、50代2名、60代2名>）に行ったインタビューとアンケート調査結果による。市街地に居住している14名の調査対象者が全員この問題を実感している。近郊地区に居住している16名の調査対象のうち、10名の人がこの問題を実感している。なお、アンケート調査内容は「付録 上海方言に関する民意調査」を参照されたい。
 5. 「関于推广普通话的指示」（「共通語の推進に関する指示」）は次のように規定している。「1956年秋から、少数民族地区を除いて、全国小中学校の国語授業で、一律に「共通語」を教える。1960年までに、小学校三年生以上、中学校および師範学校の学生は基本的に共通語で話さなければならない。小学校および師範学校の各科目の教師、中学校および中等専門学校も、基本的には共通語で教学しなければならない。」

する指示)が公布されて以来、上海市は長年この指示を積極的に普及させた。近年、一部の小学校は、学生に「学校内では共通語のみ話す」ことを規定し、「授業の余暇に、上海方言で話すと、品行点を差し引く」という評定方法まで採用した⁶。自分の子供が学校で品行点が引かれることのないように、一部の家長は家でも子供に極力共通語で話すようになった。このような非母語化⁷の教育スタイルは、一部の上海市戸籍の子供が上海方言で流暢に話せなくなるという事態を招いた。外来者が増えるにつれ、一部の上海市出身の小学生は、同じクラスで勉強している地方の子供の共通語の発音に負けないため、自発的に上海方言に抵抗し、学校以外でも上海方言を話さなくなった⁸。最近では、上海方言がまったく話せず、共通語のみ話す上海市戸籍の子供が現れた⁹。

上海方言に関する語彙的研究あるいは上海市の人口移動に関する研究はこれまでも行われているが¹⁰、両者を接合し、人口移動の側面から上海方言の使用状況に現れる変化、外来者による上海方言受容意識の変遷および現状などを調査し分析した研究は少ない¹¹。

-
6. 2006年、北京で開催された「記念推广普通话50周年理論座談会」(「共通語推進50周年記念理論座談会」)で、中国社会科学院言語研究所所属、雑誌『中国語文』の副主編劉丹青の発言による。
 7. 『現代漢語大詞典』(『現代漢語大詞典』編委会編、上海辞書出版社、2007年)は「母語」に対して、次の二つの解釈をしている。「一、一般的に言うところの『母語』とは、人が最初にマスターする本民族の共通語、あるいは方言である。二、一つの言語が多種の言語に進展し変化した場合、この言語は、これらの多種の言語の『母語』になる。」本論では、「母語」に関する一つ目の解釈を中心に、論述を展開させる。
 8. 2009年5月1日、筆者が上海市で行ったインタビュー調査結果による。
 9. 「百度網」<http://baike.baidu.com/view/113423.htm>。
 10. 上海方言に関する語彙的研究は以下の論文がある。野田耕司「上海方言の授与動詞「拔」について」『熊本学園大学文学・言語学論集』第9巻第1号、2002年6月、p.115-141。佐藤直昭「上海方言における“有+NP+VP”構造と連続変調」『中国文学研究』第31期、2005年12月、p.255-274。朱一星「上海方言音連続変調の統語的特徴(上)」『研究論叢』第66期、2005年、p.185-190。(下)『研究論叢』第69期、2007年、p.121-127。上海市の人口移動に関する研究は以下の論文がある。福島義和「リーロン地区の再開発事業にともなう人口移動と上海大都市圏の発展(その1)」『社会科学年報』第44期、2010年、p.151-161。厳善平「流動する社会、分断する都市労働市場：人口移動にみる転換期中国の二重構造」『桃山学院大学総合研究所紀要』第31巻第2号、2005年11月、p.1-26。戴二彪「『中国新移民』の移出地構造の変動：経済発展の国際人口移動の影響」『経済地理学年報』第50巻第1号、2004年3月、p.46-62。
 11. 2007年8月中旬-9月末、上海社会科学院の「人口と発展研究所」は、上海市近郊地区に居住している420名の外来者に対して、「社会的支持」、「結婚恋愛観」、「交友」、「言語」などの面からアンケート調査を実施した。(胡蘇云、答浩、王宏「上海郊区外来青年社会融入度分析」<張肖敏主編『和諧社会視野下的中国人口与發展』南京大学出版社、2008年、p.166-177>。)

上海市において深刻になりつつある、以上のような人口移動がもたらす上海方言の弱化現象を研究するため、本論はまず上海市および上海方言の形成の経緯を整理し、中華人民共和国が成立する以前と以後（以下、建国前・建国後と表記する）という二つの時期に分けて、上海市人口の原籍構成状況、各時期の上海方言の使用状況および地元の上海人と外来者の上海方言に対する認識の変化を、筆者が2009年5月1日、9月5、6日と2010年2月14、15、19日に上海市で行ったインタビューおよびアンケート調査結果に基づいて帰納する。次に、近年上海市に居住するようになった外来者の、上海市への定着状況について分析し、上海方言が直面している問題点について考察する。最後に、上海方言の将来性および今後の課題をまとめたい。

一 人口移動による上海方言の使用状況の変遷と外来者による上海方言の受容意識

1. 上海市の形成と初期段階における上海方言の形成経緯

751年（唐天宝10年）、上海地区は華亭県（今の松江区）に属していた。長年、松江上流で土砂が堆積したため、海岸線が東に移動し、大きな船が入り出するのには不便になり、991年（宋淳化2年）以降、外来の船舶は松江にある「上海浦」という支流に停泊するようになった（その位置は、今日の上海市のバンドから十六鋪付近の黄浦江あたりになる）。1267年（南宋鹹淳3年）、上海浦の西岸で小都市が設けられて、「上海鎮」と命名された。1277年（元至元14年）、華亭県が華亭府に昇格され、翌年は松江府に改名された。清朝まで、松江府は華亭、婁、上海、青浦、金山、奉賢、南匯という七つの県と川沙を包括していたが、1292年（元至元29年）、元朝中央政府は上海鎮を華亭県から独立させ、上海で上海県を設立することを許可した。それによって、華亭県の東北、黄浦江兩岸にある高昌、長人、北亭、海隅、新江という五つの郷は、松江府に管轄されるようになった。これは上海建城の始まりであった。その時から、松江方言と異なる「旧上海方言」¹²が形成され始めた¹³。

一方、呉淞江の北には1218年1月7日（南宋嘉定10年12月初九日）に嘉定県を設けて、のち、宝山県を設立した。長江口の沙洲には907年頃

(五代初)に崇明鎮を設置し、1277年には崇明州に改名し、1369年(明洪武2年)には崇明県と改名した。上海市街地は、元々は呉淞江下流にある漁村であり、唐宋のときに次第に繁栄し、港になった。1265-1274年、上海鎮が建てられて、鎮は黄浦江西にある上海浦に基づいて名付けられた。

1927年7月7日、上海特別市の市政府が創立され、当時上海の人口はすでに264万人を上回っていた。1930年7月1日、「上海特別市」は「上海市」に改名された¹⁴。上海市が設立されたとは言え、上海方言は完全に確立されたわけではなかった。以下はその要因を人口移動および上海市の地理上の合併などの側面から分析する。

2. 建国前の上海(上海市)人口の原籍構成状況および上海方言の使用状況

1845年11月29日、「上海土地章程」の公表に伴って、イギリス租界は上海で創立され、1848年11月27日には範囲が拡大された。1849年4月6日、フランス租界も上海で創立され、1861年10月には一回目の拡張が行われた。1863年9月21日、イギリス租界とフランス租界が合併され、「共同租界」と呼ばれるようになった。1900年1月27日、フランス租界は再び拡大され、その面積はもとの2倍以上に達した¹⁵。

1930年まで、「共同租界」の人口は上海総人口の三割以上を占め、うち、非上海原籍の人口の比率は総人口の約八割以上を占めていた¹⁶。その時の「華界」の人口は上海総人口の約半数を占めていた¹⁷。表1は、1929-1936年の上海における「華界」の外来者の原籍構成状況を反映している。上海市が設立される一年前である1929年当時、上海の「華界」に居住していた原籍が江蘇省と浙江省の人口は、それぞれ「華界」総人口の69.75%と18.93%を占める。1930年代初期に、上海にいる江蘇籍の人口はやや減少

12. 当時の上海方言は今日の上海方言とは発音、語彙の使い方、語順などの面においては多くの差異があるため、ここでは「旧上海方言」と称する。上海方言の発展状況については『上海語言發展史』(前掲)が詳しい。

13. 『上海語言發展史』(前掲) p.1-2。

14. 熊月之、周武主編『上海:一座現代化都市的編年史』上海書店出版社、2007年、p.1-63、p.631-637。盧漢龍主編『転変中の上海市市民』上海社会科学院出版社、2008年、p.31を参照した。

15. 木之内誠編著『上海歴史ガイドマップ』大修館書店、2007年、p.147-153を参照した。

16. 鄒依仁『上海人口変遷の研究』(上海人民出版社、1980年、p.112<表19>)。

17. 初出は上海市年鑑委員会編『上海市年鑑』(各年、上海市通志館)、羅志如『統計表中之上海』(国立中央研究院社会科学研究所、1932年)。底本は『上海人口変遷の研究』(前掲、p.90-91<表1>)。

人口移動による上海方言の弱化現象に関する一考察

(表1) 上海における「華界」人口の原籍構成状況 (1929-1936)¹⁸

年 地区	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936
上海	426,648 28.43%	436,337 25.78%	455,662 24.98%	430,875 27.43%	473,636 25.79%	488,631 25.52%	513,704 25.28%	513,810 23.95%
江蘇	1,046,622 69.75%	669,253 39.55%	725,470 39.77%	619,298 39.41%	725,510 39.50%	751,531 39.25%	797,843 39.26%	868,903 40.50%
浙江	283,995 18.93%	342,032 20.21%	367,270 20.13%	283,625 18.05%	341,568 18.60%	358,364 18.72%	384,622 18.92%	412,583 19.23%
安徽	51,099 3.41%	60,013 3.55%	64,882 3.56%	65,324 4.16%	79,852 4.35%	86,510 4.52%	91,726 4.51%	94,576 4.41%
広東	36,947	40,554	47,023	22,343	38,579	48,795	54,987	57,127
山東	20,395	25,958	28,861	25,836	30,259	31,684	33,018	35,165
湖北	19,681	24,270	27,291	26,798	28,836	34,211	35,100	34,782
南京	— ¹⁹	22,875	25,211	25,195	29,959	31,316	33,237	33,407
河北	14,462	14,840	16,889	15,173	18,614	30,294	31,649	33,310
湖南	5,282	8,200	9,414	9,256	10,810	11,401	12,276	15,882
福建	9,654	12,173	13,454	11,052	12,963	13,196	13,351	12,348
江西	5,926	6,946	8,407	6,801	7,898	8,452	9,293	10,900
河南	2,677	4,872	6,213	5,706	7,758	8,306	8,859	9,875
北平	—	4,204	5,309	5,013	6,095	6,466	7,065	7,123
四川	1,615	2,420	2,648	1,798	2,028	2,134	2,193	2,775
青島	—	734	713	539	560	631	549	529
广西	559	846	975	637	1,065	1,129	1,147	452
山西	375	383	382	306	380	405	424	416
云南	97	320	325	146	213	216	232	222
陝西	855	818	247	216	208	202	177	218
貴州	112	224	277	63	142	130	163	157
甘肅	17	138	188	50	44	37	30	36
その他	130	13,925	16,878	15,039	19,652	653	754	721
総計	1,500,500	1,692,335	1,823,989	1,571,089	1,836,629	1,914,694	2,032,399	2,145,317

出所：鄒依仁『上海人口變遷の研究』（上海人民出版社、1980年、p.112<表20>とp.114-115<表23>）に基づいて作成した。

18. 本表は上海を除いて、1936年の人口の多い方から順に排列している。また、上位三位である江蘇、浙江と安徽の外来流動人口が上海総人口に占める比率のみ算出している。なお、1929年の人口は、4月のデータである。1933年の人口は、12月のデータである。その他の年は、9月のデータである。外国人を除く：鄒依仁注。

19. 横線部分はデータ不詳である。

していたが、全体的に見ると、江蘇籍の人口が上海市の総人口に占める比率は、終始一位であった。1936年、上海市に居住していた原籍が江蘇省の人口は、「華界」総人口の40.50%と減ったが、浙江省からの人口は19.23%とやや増えた。両地の人口を合わせると、「華界」総人口のおよそ六割を占める。それに対して、当時、上海市の「華界」で生まれ育った上海人は、上海市の総人口の23.95%に過ぎなかった。

1930、40年代は「上海方言」と「旧上海方言」が交替する時期である、とされている²⁰。この時期の人口移動に伴う、外来者による上海方言の受容状況を把握するため、筆者は2009年5月1日に、上海市黄浦区に在住している浙江省紹興市出身の87歳の女性（A氏、1921-）、彼女の6人の子供にインタビュー調査を行った。A氏は19歳のときに両親の意志に従って、自分より8歳年上の地元の男性と結婚した。20歳のときに、夫の紡織関係の商売のため、上海に移住した。以降、A氏一家は上海市に在住している。1993年に、A氏の夫が他界した。A氏は文盲で、夫は小学校まで勉強した。今回は長女をインタビュー調査していない。彼らの7人の子供は共に上海市で生まれて、上海市で育った。長女は仕事の関係で、20歳のときに北京へ移住した。その後、湖南省出身の医者とは北京で結婚し、今日まで、北京に居住している。7人の子供はそれぞれ64歳（長女、1945-）、62歳（次女、1947-）、60歳（三女、1949-）、57歳（四女、1952-）、53歳（五女、1956-）、49歳（六女、1960-）、45歳（長男、1966-）である。A氏の記憶によると、上海に移住したばかりの頃、自分と夫は、常に紹興方言で話していた。子供が生まれるにつれ、紹興方言以外、上海方言も使うようになった。上海方言は日常生活の中で自然に覚えた。子供たちは紹興方言を聞き取れるが、話すことはなく、日常生活の中では上海方言を使用していた。当時、A氏の家の近所には江蘇省、浙江省出身の人が大勢いた。彼らも自分達と同様に、夫婦あるいは地元出身の人との間では方言で話すが、子供とはなるべく上海方言で話すようにしていた。今では、A氏は話すとき、上海方言の中に紹興方言が依然として混ざっている。また、A氏は共通語をまったく話せない。

20. 『上海語言發展史』（前掲）p.110。

このように、上海市が設立されたばかりの頃、上海方言はまだ完全に確立されていなかったが、上海市に移住した外来者は、夫婦と地元出身者の間では故郷の方言で話すが、子供と話す場合、あるいは公共の場で話すときはなるべく上海方言を使用していた。上海市で生まれた子供は両親の出身地の方言で話すのではなく、上海方言を母語にしていた。

3. 建国後の上海方言の使用状況——上海市における区・県の設立に関連して

(1) 1949-1959

1949年5月27日、上海市が解放された。当時、全市は黄浦、老閘、新成、静安寺、江寧、普陀、邑廟、蓬莱、嵩山、盧家湾、常熟、徐家匯、長寧、閘北、北站、虹口、北四川路、提籃橋、榆林、楊樹浦という20の市街地と新市街、江湾、呉淞、大場、新涇、龍華、楊思、洋涇、高橋、真如という10の近郊地区に区分されていた。それに、土地面積は636 km²に過ぎなかった。1950年1月、上海市の人口は4,980,992人に達した。上海市の原籍人口の構成を見渡すと、江蘇省（南京市を含む）出身の人口はすでに2,393,738人まで上昇し、浙江省出身の人も依然として2位で、1,283,880人に達した。両省出身の人は上海市総人口のそれぞれ48.06%と25.78%を占めて、上海市総人口の七割以上達した。それに対して、上海市の原籍人口は750,855人で、総人口の15.07%に過ぎなかった²¹。言い換えると、新中国が成立したばかりの頃、上海市の原籍人口が総人口に占める比率は、1936年のときより下がっていた。上海方言は杭州、蘇州、寧波などの言葉に大きく影響された²²。

1950年代末、上海市は近辺の県との間で大規模な合併と調整が行われた。1958年1月17日、国務院は嘉定県、宝山区と上海県を上海市に編入したため、65万人が上海市戸籍に変わった。同年12月21日、川沙県、青浦県、南匯県、松江県、奉賢県、金山県と崇明県も上海市に繰り入れられて、数百万人が新たに上海市戸籍になった。さらに、浦東県も上海市に編入された²³。これらの一連の合併と新設によって、上海市の管轄区域範

21. 『上海人口變遷的研究』前掲、p.117、表24。

22. 錢乃榮『上海方言』文匯出版社、2007年、p.19-24。

23. 『上海：一座現代化都市的編年史』前掲、p.530、p.532、p.534。

囲は 5,910 km² まで拡大し、土地面積も 1949 年の約 10 倍になった。一方、上海方言も徐々に確立され始めた²⁴。

(2) 1960-1977

1960 年代に入り、上海市の調整が依然として展開されていた。1960 年 1 月、上海市は閔行区と呉淞区を創立し、翌年 1 月、浦東県を取り消した。1964 年 5 月、閔行区と呉淞区も取り消された。そして、上海市は黄浦、南市、盧湾、徐匯、長寧、静安、普陀、閔北、虹口、楊浦という 10 の市街地および上海、嘉定、宝山、川沙、奉賢、南匯、松江、金山、青浦、崇明という 10 の郊外の県から構成されることとなった。

1958 年 1 月 9 日に「中華人民共和国戸口登記条例」（「中華人民共和国戸籍登記条例」）が公布されて以来、中国の都市と農村の二元化社会管理制度が始まり、戸籍変更も厳しく管理されるようになった。以降、改革開放までの 20 年間上海市の人口は流出する一方で、外来者は極めて少なかった。そのため、上海方言は安定する時期に入った。

(3) 1978-2000

改革開放以降、上海市の市街地と近郊地区の地理的変遷は一層激しくなり、外来者も徐々に増えるようになった。1980 年 10 月、上海市は呉淞区を設立し、翌年 2 月、閔行区を設立した。1988 年 1 月、上海市は宝山区と呉淞区を取り消して、宝山区に設立した。1992 年 9 月、上海県は閔行区に合併された。それに、川沙県全区域、上海県三林郷と黄浦、南市、楊浦区の浦東地区は合併され、浦東新区になった。同年 10 月、嘉定県が嘉定区に改名された。表 2 で示したように、1995 年から 2001 年にかけて、上海市における区と県の範囲は変化し続けていた²⁵。

24. 『上海語言發展史』（前掲）p.48。

25. 『上海市年鑑』（各年、前掲）を参照した。

人口移動による上海方言の弱化現象に関する一考察

(表2) 上海市における区と県の設立経過 (1995-2001)

年	土地面積 (km ²)	人口 (万人)	区・県	人口密度 (人/km ²)
1995	2,057.01	956.66	14 個の区 (黄浦区、南市区、盧湾区、徐匯区、長寧区、静安区、普陀区、閘北区、虹口区、楊浦区、宝山区、閔行区、嘉定区、浦東新区)	2,052
	4,283.49	344.71	6 つの県 (南匯県、奉賢県、松江県、金山県、青浦県、崇明県)	
1996	2,051.01	961.02	同 1995 年	2,057
	4,283.49	343.41		
1997	2,643.06	1018.59	15 個の区 (金山県は金山区に改名された ²⁶⁾)	2,059
	3,697.44	286.87	5 つの県	
1998	3,248.70	1070.62	16 個の区 (松江県は松江區に改名された)	2,061
	3,091.80	235.96	4 つの県	
1999	3,924.24	1,127.22	17 個の区 (青浦県は青浦區に改名された)	2,071
	2,416.26	185.90	3 つの県	
2000	3,924.24	1,136.82	16 個の区 (黄浦区と南市区が合併し、黄浦區に改名された)	2,084
	2,416.26	184.81	3 つの県	
2001 ²⁷⁾	5,299.29	1262.41	18 個の区 (南匯県は南匯區に、奉賢県は奉賢區に改名された)	2,093
	1,041.21	64.72	1 つの県 (崇明県)	

出所：上海市統計局編『上海統計年鑑』（中国統計出版社、各年）に基づいて作成した。

26. 面積は 586.05 km² で、15 の区の中で面積が最も大きい区である。

27. 2001 年以降、上海市は 18 の行政区と崇明県から構成されるようになった。政府は上海市の各区・県の特徴に基づいて、さまざまな管理方式を実施した。例えば、2004 年 1 月 1 日から、上海市は通称「11863 計画」という新しい財税体制改革を推進し、「地域の税収徴収管理」という政策を実施し始めた。「11863 計画」の最初の「1」とは、崇明県である。崇明県は環境保護事業に特に力を入れているため、経済発展は若干遅れている。それを補うため、政府は崇明県では「税徴収委託管理と地方税収を徴収しない。公共事業に生じた差額を補充し、生態専門項目を扶助する」、という政策を実施し始めた。二番目の「1」とは、浦東新区のことである。「8」とは、8 つの郊外工業区のこと、「税収は委託徴収し、管理させ、地方税収の増えた分はすべて返し、特別支出金は、その費目のみ使用する」、という政策が実施されている。「6」とは、6 つの中心地域のことを指し、主に、現代サービス業を発展させることを目標している。「3」とは、楊浦区、普陀区と閘北区のことである。この三つの区では、「特定業種の税徴収委託管理と地方税収の増加分および特定市級企業の地方税収はすべて返す。特別支出金はその費目のみ使用する」、という政策が実施されている。(上海市地方志弁公室、当代上海研究所編『上海改革開放 30 年図志：総合巻』上海人民出版社、2008 年、p.280-281。)

(4) 2001 年以降

1950 年末以降から始まった上海市の区・県の合併と統合は、2001 年にようやく終わった。2001 年から、上海市は 9 つの市街地（徐匯区、長寧区、普陀区、閘北区、虹口区、楊浦区、黄浦区、盧湾区、静安区）と 10 の近郊地区（浦東新区、宝山区、閔行区、嘉定区、金山区、松江区、青浦区、南匯区、奉賢区、崇明県）から形成されることとなり、総土地面積は 6,340.5 km² になり、その広さは中国の総面積の 0.06% に相当する。9 つの市街地と浦東新区に居住しているほとんどの上海市民の母語は上海方言である。近郊地区の多くの市民は松江方言、練塘方言、嘉定方言、崇明方言で話す。

筆者は 2009 年 9 月 5、6 日、2010 年 2 月 14、15、19 日に、上海市の近郊地区でインタビューとアンケート調査を行った。浦東新区と崇明県を除いた近郊地区の市民にはある共通点があった。「区」に変更される前に、彼らは上海方言が話せないことを気にして、上海市の市街地に住む純粋な上海方言を話す上海人の前では、「上海人」と名乗るより、むしろ宝山人、閔行人、嘉定人、金山人、松江人、青浦人、南匯人、奉賢人であると言っていた。しかし、「区」に改名されて以来、ますます多くの上海市近郊地区の市民は、上海市市街地との距離感が近づき、自分たちは上海方言が話せないが、しかし上海市の戸籍を所有しており、増えつつある外来者と比べれば、自分たちは「上海人」に属するという自覚が芽生え、堂々と「上海人」であることを名乗るようになった。

1980 年代末期まで、市街地に住む上海方言を話す人は、近郊地区に住む上海方言以外の方言で話す人をしばしば「上海市の田舎者」と見なしていた。しかし、この状況は 1990 年代に入り、一変した。1990 年以降の浦東開発、さらにその後の上海市の大規模な都市再建で、多くの市街地市民は近郊地区に引っ越すことになった²⁸。近郊地区に引っ越したとは言え、

28. 上海市は 2010 年 5 月 1 日 -10 月 31 日に開催される「万博」を迎えるため、都市建設を急ピッチに展開させ、2005 年 3 月からは 18,000 千戸に及ぶ住民と 272 の企業を立ち退かせた。家屋が取り壊された市民は国から「家屋取り壊し手当」を支給されるが、しかし近年上海市の住宅費用が高騰しているため、このお金で元の土地でマンションなどを購入することは到底できない（『上海統計年鑑 <2009>』 <前掲, p.152> のデータによると、上海市一人平均の可処分所得の収入は 26,675 元となっている。それに対して、近年、上海市の住宅は約 20,000 元 / m² に跳ね上がっている）。一部の市民は、長年生活してきた市街地から離れて、市街地に比較的近い、交通が便利な浦東新区、宝山区、閔行区という近郊地区に引っ越すしかない。

彼らは自分達を決して「田舎者」とは思わない。なぜならば、彼らは上海方言が話せると自負しているからである。多くの近郊地区の人は上海方言を聞き取れるが、話せない。そのため、近郊地区に引っ越した元市街地住民は、近郊地区の公共の場ではしばしば共通語で話すようになった。

以上、建国前の上海市人口の原籍構成状況および各時期の上海方言の使用状況を史料およびアンケートとインタビュー調査の結果に基づいて分析した。建国後の上海方言に対する認識を、上海市における区・県の設立、都市再建と関連させ、市街区と近郊地区の市民の間に生じる意識転換と言語面での現実問題に着目した。次は、近年の上海市における外来者の原籍構成および彼らの上海市への受容状況について分析し、上海方言が置かれている立場を考察したい。

二 近年における上海方言の弱化現象——上海市による外来者の受容状況に基づいて

2000年、上海市における外来者の出身地の中で、10万人を超える省は、それぞれ次の通りである。「安徽省（124.72万人）、江蘇省（92.90万人）、浙江省（38.30万人）、四川省（28.22万人）、江西省（23.36万人）、河南省（16.05万人）、福建省（10.80万人）、湖北省（10.44万人）である。」²⁹『2005年上海市1%人口サンプリング調査資料』によると、上海市にいる外来者のうち、5,000人を超える省は、次の通りである。「安徽省（42,869人）、江蘇省（27,150人）、四川省（10,629人）、河南省（8,982人）、浙江省（8,826人）、江西省（8,291人）、湖北省（5,508人）、福建省（3,837人）である。」³⁰2000年のデータと比べると、2005年の方では順位に若干の変化はあるが、しかし安徽省と江蘇省からの外来者は、依然として一位と二位を占めていた。

2000年、上海市の外来者のうち、約27.40%の人は商業サービスに従事していたが³¹、2005年、その比率は33.69%まで上昇した³²。一般的に言うと、

29. 上海市人口普查弁公室編『上海市2000年人口普查資料 外来流動人口普查数据』中国統計出版社、2002年、p.113。

30. 上海市1%人口人口抽樣調查領導小組辦公室、上海市統計局人口与就業統計処編『2005年上海市1%人口抽樣調查資料』中国統計出版社、2007年、p.165-169。

31. 『上海市2000年人口普查資料 外来流動人口普查数据』前掲、p.283左欄。

32. 筆者が『2005年上海市1%人口抽樣調查資料』（前掲、p.206-207）のデータに基づいて算出した。

大多数の外来者が上海市で生活し始めたときは、まったくと言っていいほど上海方言が聞き取れないし、話せない。そのため、上海市市民は日常生活の中で、多くの場合、公共の場では共通語を使うほかない。一部の学習意欲があり、言語能力の高い外来者は半年もすれば、上海方言を徐々に聞き取れるようになるが、しかし上海人のように話すまではまだ時間が掛かる。外来者にとって、上海方言は上海市に定着するための一つ大きな壁であると言っても過言ではない。

上海市による 2000 年のセンサス結果によると、15 万人の外来者の配偶者は上海市戸籍であり、その比率はすべての外来者の婚姻構成の 4.50% を占めていた³³。2008 年、上海社会科学院の社会調査センターは、上海市閘北区の彭浦コミュニティに住む、上海市戸籍の男性と結婚している 250 名の非上海市戸籍の妻に対して、サンプリング調査を行った。この調査結果によると、非上海市戸籍の妻にとって、上海市への順応に影響する主な要素とは、次の通りである。「戸籍問題 (66.5%)、雇用問題 (35.1%)、上海方言 (24.6%)、社会からの偏見 (19.8%)」³⁴。このように、地元以外の都市への順応という問題の中で、母語 (方言) の不一致は戸籍制度と雇用問題に続き、第三位になっている。上海市で生活し、且つ上海人の夫を持つ外来者の妻の約四人に一人は、上海方言が原因で、上海市への順応に障碍を感じている。

2007 年 8 月中旬 -9 月末、上海社会科学院の「人口と発展研究所」は、上海市近郊地区に居住している 420 名の外来者に対して、「社会的支持」、「結婚恋愛観」、「交友」、「言語」などの面からアンケート調査を実施した。うち、368 名の外来者のアンケートが回収されて、回答の有効率は 87.62% に達した³⁵。このアンケート調査結果によると、「社会的支持」の面では、64.4% の回答者は「上海人は外来者に対しては、比較的友好である」と考

33. 『上海市 2000 年人口普查資料 外来流動人口普查数据』前掲、p.357。上海市人口普查办公室編『上海市 2000 年人口普查資料 全部人口普查数据』中国統計出版社、2002 年、p.525 左図。

34. データは多項目選択となっている。劉波、江小麗『「新上海女性」的社会融入——基于閘北区彭浦社区研究』(王榮華主編『2009 年上海社会報告書』上海社会科学院出版社、2009 年、p.474)。

35. 調査した上海市近郊地区の住民の平均年齢は 25.64 歳で、男性は 52.4% を占めて、女性は 47.6% を占めている。回答者のうち、非農業戸籍の外来者は 52.4% で、農業戸籍は 47.6% を占めている。農業戸籍の回答者の中で、よく農業を行なっている人は 37.3% で、たまに農業を行なう人は 41.8% を占めて、基本的に農業を行わない人は 20.9% を占めている。

え、38.6%の回答者は「外来者が困難なときに、上海人に助けてもらえる」と信じている。60.7%の回答者は「困難なときに、熟知する同郷人に助けてもらいたい」と答え、25.4%の回答者は「困ったときは、自分で解決する」と表明し、「上海人に助けをもらう」、「住民委員会に助けを求める」と答えた人は、それぞれ11.0%と2.9%であった。「上海市市民としての基本的な常識についての教育を受けたことがある」と回答する人は33.4%を占めている。そうした教育は、主として住民委員会・コミュニティ組織(46.5%)、所属企業(40.5%)から提供された。これらのデータから考えると、多くの外来者が上海市に居住しているとは言え、彼らは依然として寄居する心境しか抱いてない。約四割の外来者は「困難なときに、上海人に助けてもらえる」と信じているが、しかし実際に困ったとき、本当に上海人に助ってもらおうとしている外来者は一割に過ぎない。このような孤立感、外来者の上海市への順応に大きな影響を与えている。

「結婚恋愛観」に関しては、45.0%の独身の外来者が「配偶者は上海人であってほしい」とし、その理由としては以下の通りである。「上海市での生活により一層馴染むため(61.8%)、子供により良い教育を受けさせるため(53.3%)、今後自分のよりいい発展ができるようになりたいため(40.0%)、上海市の親戚から配慮してもらえるため(10.9%)」。

このように、外来者が上海人を配偶者として選ぶ理由は、「上海人である結婚相手が好き、あるいは上海市という都市が好きであるため」ではなく、自身が上海市でより心地のいい生活ができるよう、よりいい発展をするため、あるいは次世代への教育のため、上海人と結婚するのである。調査された約半数に近い外来者は、上海人と結婚することによって、自分の人生、更には次世代の運命を変えようとしている。外来者のこのようなやや歪んだ結婚目的は、ある意味では、「経済的な豊かさ」ばかり追いつめて、

また、一人っ子は20.9%を占め、非一人っ子は79.1%を占めている。32.9%の回答者の月収は1,000-1,999元で、2,000-2,999元と3,000-3,999元の方は、それぞれ19.6%と24.7%を占めている。共産党員は13.0%を占めて、共青团員は47.8%を占めている。主な出身地は、安徽省、広東省、江蘇省、浙江省である。教育水準から見ると、大学院卒、大学卒、短大卒、高卒、中卒、小卒および学校教育を受けたことがない人はそれぞれ2.7%、30.4%、16%、33.4%、14.4%、2.7%と0.3%を占めている。なお、教育水準の合計比率は99.9%となっているため、すべてのデータに誤差がある：虞注。(「上海郊区外来青年社会融入度分析」<張肖敏主編『和諧社会視野下の中国人口与發展』前掲、p.166-177>。)

「精神的な豊かさ」を欠いたまま凄まじいスピードで発展している新時代の中国の一つの産物であると言えよう。

「交友」の面では、55.5%の回答者は「上海人と友達になりたい」と答え、32.3%の回答者は「どちらでもいい」、と表明している。「上海市出身の友人とよく連絡を取り合っている」と答えた人は、その詳細について以下のように回答している。47.0%の人は「5人以下の上海市出身の友人がいる」、20.1%の人は「5人以上の上海市出身の友人がいる」。そして、上海市出身の友人とは「仕事を通じて知り合った」とする人が75.3%を占め、「日常生活の中で知り合った」とする人は38.1%、「他人の紹介で知り合った」という人は14.2%、「ネットを通じて知り合った」という人は13%、「娯楽活動を通して知り合った」という人は7.3%、そして「上海市出身の友人はいない」と回答する人は32.9%を占める。多項目選択ではあるが、三割の外来者は「上海市出身の友人がいてもいなくても大丈夫」、と表明している。

このように、外来者は上海市に居住しているが、しかし、一部の人は意識的、あるいは無意識に上海人を排除している。彼らのこのような意識観念は、自身を上海市においていつまでも「寄居者」に過ぎない身分に導く。これは彼らの上海市への順応に影響するのみならず、上海市の都市発展にもマイナスの要素を与え、また、上海方言弱体化現象にも繋がる原因になる。言うまでもなく、上海市外来流動人口管理政策も外来者がこのような上海人排除の観念を抱く一つの要因である³⁶。

上海市に居住している外来者に「将来の予定」について尋ねると、「状況によって決める」という比率は最も高く、44.8%を占める。「長期にわたって上海市に残る予定である」、「上海市で創業する予定である」、「いつかは帰省する予定である」、「技術を身につけてから、故郷に戻って、創業する予定である」、「考えていない」、「上海市と故郷の間を、今みたいに往復する」と答える人は、それぞれ16.6%、9.8%、9.5%、9.0%、6.3%、4.1%を占めている。「生活するには上海市は理想的な都市ですか」と問うと、「そうです」と答える人は36.4%を占めて、「いいえ」と回答した人は24.7%

36. これについては別稿で論ずる。

を占めている。それに、「情況によって判断する」、「はっきり言えない」と答える人は、それぞれ 26.1% と 12.8% であった。言い換えると、決して理想的な都市とは思えないが、学習、仕事などの理由から、上海市で生活している、あるいは生活しなければならないという外来者は約四人に一人である。

「言語」の面から見ると、6.5% の回答者は「上海方言が完全にわかる」、45.7% の回答者は「一部の上海方言がわかる」、47.8% の回答者は「上海方言を聞いてもわからない」。90.5% の回答者は「上海市にいるほとんどの時間は、共通語で話す」とし、「出身地の方言で話す」人は 8.1% を占めて、「上海方言で話す」人は 1.4% に過ぎない。上海方言が理解できて、且つ上海方言で交流できる回答者の中で、「非常に流暢」な人は 3.0% を占めて、「日常会話しか話せない」人は 19.0% を占めて、残りの 78.0% の回答者は「上海方言で上海人と交流することができない」、と表明している。

上海人の夫を持つ外来者の妻と違って、筆者が 2009 年 9 月 5、6 日と 2010 年 2 月 14、15、19 日に上海市で調査した 20 人の外来者（男性 6 名、女性 14 名）のうち、上海方言がわからないのが原因で悩んだ人は一人もいなかった。近年、言語で不自由さを感じているのはむしろ上海市民である。前述した筆者がインタビュー調査を行った A 氏によると、1990 年代後半から、市場において外来者の行商人と値段交渉などをする時にしばしば誤解が生じる。上海市は 1956 年以降「共通語の推進に関する指示」を積極的に普及させる努力をしたが、A 氏の 6 人の子供の共通語の発音は標準ではない。彼らの母語は「上海方言」となっている。母の A 氏ほど困らないが、近年、彼らも上海市の至るところで、外来者とのやりとりのときに、誤解などが生じている、と言う。「上海方言」の特徴としては、共通語の中の「zh、ch、sh、r」という舌音がなく、それに三重母音や、-n と -ng の区別もない。このような発音の差異は、上海人と外来者の間で誤解を招く原因になっている。一方、1970 年以降に生まれた A 氏の 5 人の孫たち（女、1978- 。男、1982- 。男、1985- 。女、1986- 。男、2000- ）は標準的な共通語を話している。一番年少の小学校に通う孫は、学校では共通語しか使わないが、日常生活では上海方言を話している、と言う。残りの 4 人の孫たちの話によると、上海市の外来者が増えるにつれ、

彼らは職場で共通語、外国語（英語、日本語）、そして上海方言を併用するようになった。

1990年代後半以降、上海方言以外の言葉話す外来者が増えるにつれ、上海市に居住する、共通語を話せない一部の年配者たちは言語においてはすでに不自由さを感じ始めている。この言語の不自由さは彼らの子供の世代にも見られた。1970年代以降に生まれた上海人は、共通語にはほとんど抵抗感がないが、しかし近年、彼らも上海市で家庭以外に上海方言を話す機会が少なくなっていることを懸念している。

外来者の間で上海方言が普及されない一つの理由として挙げられるのは、彼らは上海方言が話せなくても、上海市での仕事、暮らしにはほとんど問題がない。なぜならば、今のところ、地元の上海人は外来者がわかるように、共通語に切り替えて話しているからである。また、前述したように、上海市で商業サービスに従事する外来者の比率が増加しているため、外来者にとっては、上海方言を習う必要性も低くなっている。さらに、現時点では、上海市で上海方言を教えている施設も少ない。

2005年、地方からの学生が上海市でより便利な生活ができることを目指し、上海市にある一部の大学は「上海方言」という授業を設けようとした。しかし、「方言に対する扱いが不平等」、「上海方言特殊化」などのバッシングがただちに行われて、上海方言の開講を実現することができなかった。結果として、上海市市民は公共の場および外来者の前では、一方的に共通語で話すことを強いられることになる。さらに、近年、外来流動人口の増加につれ、上海市では、上海方言を使用する場所は次第に減り、一部の上海人は「上海方言は家庭内の言語になりつつある」という懸念まで抱き始めている³⁷。

おわりに——上海方言の将来性および今後の課題に結び付けて

冒頭で指摘したように、上海市の一部の子供は周りの地方からの子供に負けられないような標準的な共通語を話し、学校で高く評価されるため、上海

37. 華東師範大学歴史学部教授許紀霖と筆者との対話および筆者が上海市で行った「上海方言に関する民意調査」の結果による。

方言を排除する現象は近年の上海市でしばしば見られるようになった。

上海市が設立された頃、上海市に移住した外来者は上海方言を積極的に吸収し、夫婦および同じ出身地の人の間以外、子供との会話、および公共の場での会話には上海方言を使用していた。そして、子供たちも上海方言を母語として身につけていた。しかし、1990年代以降に上海市に流入した外来者は上海方言を身につける意欲が薄い。これは共通語の普及に影響を受けたのみならず、外来者の上海市への順応度が低くなったこととも関連している。その原因の一つとしては、1950年代末期に始まった戸籍規制が考えられる。とは言うものの、戸籍制度を全面的に緩和させる³⁸ことは、今日の中国にはまだ早すぎるのである³⁹。

一方、近年上海市にいる外来者は、日常生活の中ではほとんど共通語で話すため、上海方言の必要性はそれほど感じない。それに、三割以上の上海市の外来者は商業サービスに従事しているため、上海市市民は多くの公共の場では共通語で話すことを強いられることになる。

また、都市再建に伴い、上海市の市街地から近郊地区に引っ越した上海市市民は公的な場で上海方言を使う機会が減っている。

以上のような問題点を抱え、上海市は2006年に上海方言を保護するため、動き出した。その年、「上海方言語彙のデジタル化」という上海市哲学社会科学基金プロジェクトが、上海大学文学部教授銭乃榮によって、展開された。この成果は翌年の『上海話大詞典』（辞海版）として、公開された。これは上海方言に関する初めての本格的な辞書であり、銭乃榮、許宝華、湯珍珠が編集し、上海辞書出版社によって出版された。その後、この研究がさらに進み、2008年7月、「上海方言ピンイン入力システム」（略称は「上海方言ピンイン入力法」）が完成された。これは上海方言の研究においては、初めての試みである。このシステムは、『上海方言大詞典』（『上海方言大辞典』〈ピンイン入力版〉）の中の15,500個余りの語彙を打ち出すことができるのみならず、上海方言の中で共通語の語義と同じであるが

38. 復旦大学経済学院教授陸銘は『十字路口的中国経済』（中信出版社、2010年）で、中国の経済の持続的な発展をするには、土地と戸籍制度を開放させなければならない、と表明しているため、中国では注目されている。

39. 上海市の外来者に関する戸籍問題は別稿で論ずる。

発音が共通語のものとは異なる 10,000 個以上の語彙も、上海方言のピンインにより入力することができる。現在、このシステムは「清籟方言学網」(<http://www.sinolect.org>)、「上海人網」(<http://www.shanghainig.com>) および「弄堂網」(<横町網>) (<http://www.longdang.com>) で公開しているため、無料でダウンロードすることができる⁴⁰。この研究成果は、上海方言に興味があり、これから上海方言を勉強しようとする人にとっては一つの朗報であろう。

2001 年 11 月 2 日、国連の教育、科学と文化組織大会第 31 期会議は、パリ本部で『文化的多様性に関する世界宣言』(「Universal Declaration on Cultural Diversity」) を採択した。この宣言の第 5 条の中で、次のように表明している。「文化の権利は、人権に欠くことのできないものであり、互いに一致し、分割してはならず、互いに依存するものである。(中略) 従って、人権と基本的自由に基づいて、すべての人が各自で選択する言語、特に母語によって自己を表現し、自己の作品を創作し普及させることができなければならない。」上海市のように外来者の増加によって、上海市市民が公的な場で母語の上海方言を話せない状況に置かれることは、現代中国にとっては、一つの水面化した問題になりつつである。と同時に、上海市に居住し共通語ばかり使う外来者の母語からの乖離問題は同様に深刻であろう。

40. 銭乃榮は『上海話大詞典』(拼音輸入版、銭乃榮編著、上海辞書出版社、2008 年、p.6) の中で、「この三つのウェブサイト以外、『吳越江南——江浙語言文化網」(<http://www.wuyuese.com>) からも『上海方言ピンイン入力システム』をインストールできる」と説明しているが、しかし、今のところ、このサイトは運営されていない。

付録

上海方言に関する民意調査

年齢 _____ 性別 _____ 職業 _____ 学歴 _____ 出身地 _____

1. あなたは上海人ですか。
 - (1) はい。 (2) いいえ。
 - (1) を選んだ方は8から答えてください。
 - (2) を選んだ方は2から答えてください。
2. あなたはいつ上海市に来たのですか。具体的に _____
3. あなたは上海方言を聞き取れますか。具体的に _____
4. あなたは上海方言を話せますか。具体的に _____
5. あなたは上海方言がわからないのが原因で悩んだことはありますか。

6. あなたは上海方言を学びたいですか。具体的に _____
7. あなたは上海方言を学んでいますか。(1) はい。 (2) いいえ。
 - (1) と答えた人は、どのように学んでいますか。
具体的に _____
8. あなたはいま上海市のどの地区に住んでいますか。
 - (1) 市街地
(徐匯区、長寧区、普陀区、閘北区、虹口区、楊浦区、黄浦区、
盧湾区、静安区)
 - (2) 近郊地区
(浦東新区、宝山区、閔行区、嘉定区、金山区、松江区、青浦区、
南匯区、奉賢区、崇明県)
9. 普段、上海市の家で家族（あるいは同居人）と交流するときに、どの言語を使用していますか。
 - (1) 上海方言のみを使用する。
 - (2) 共通語のみを使用する。
 - (3) 上海方言以外の方言のみを使用する。

- (4) 基本的には上海方言で話すが、時々は共通語および上海方言以外の方言でも話す。
- (5) 基本的には上海方言で話すが、時々は共通語でも話す。
- (6) 基本的には上海方言で話すが、時々は上海方言以外の方言でも話す。
- (7) 基本的には共通語で話すが、時々は上海方言および上海方言以外の方言でも話す。
- (8) 基本的には共通語で話すが、時々は上海方言でも話す。
- (9) 基本的には共通語で話すが、時々は上海方言以外の方言でも話す。
- (10) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々は共通語および上海方言でも話す。
- (11) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々は共通語でも話す。
- (12) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々は上海方言でも話す。
- (13) 外国語で話す。
- (14) 一人暮らしをしているため、家ではあまり話さない。

(3)、(4)、(6)、(7)、(9)、(10)、(11) あるいは (12) を選んだ方は、具体的にどの方言を使っていますか。_____

(13) を選んだ方は、具体的にどの外国語を使っていますか。_____

10. あなたは社会人ですか、それとも学生ですか。社会人の場合は 11 番を答えてください。学生の場合は 12 番を答えてください。
11. あなたは仕事のときに、どの言語を使用していますか。
- (1) 上海方言のみを使用する。
 - (2) 共通語のみを使用する。
 - (3) 上海方言以外の方言のみを使用する。
 - (4) 基本的には上海方言で話すが、時々は共通語および上海方言以外の方言でも話す。
 - (5) 基本的には上海方言で話すが、時々は共通語でも話す。
 - (6) 基本的には上海方言で話すが、時々は上海方言以外の方言でも話す。
 - (7) 基本的には共通語で話すが、時々は上海方言および上海方言以外の方言でも話す。

人口移動による上海方言の弱化現象に関する一考察

- (8) 基本的には共通語で話すが、時々上海方言でも話す。
- (9) 基本的には共通語で話すが、時々上海方言以外の方言でも話す。
- (10) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々共通語および上海方言でも話す。
- (11) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々共通語でも話す。
- (12) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々上海方言でも話す。
- (13) 外国語で話す。

その理由を教えてください。

12. あなたは学校にいるときに、どの言語を使用していますか。

- (1) 上海方言のみを使用する。
- (2) 共通語のみを使用する。
- (3) 上海方言以外の方言のみを使用する。
- (4) 基本的には上海方言で話すが、時々共通語および上海方言以外の方言でも話す。
- (5) 基本的には上海方言で話すが、時々共通語でも話す。
- (6) 基本的には上海方言で話すが、時々上海方言以外の方言でも話す。
- (7) 基本的には共通語で話すが、時々上海方言および上海方言以外の方言でも話す。
- (8) 基本的には共通語で話すが、時々上海方言でも話す。
- (9) 基本的には共通語で話すが、時々上海方言以外の方言でも話す。
- (10) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々共通語および上海方言でも話す。
- (11) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々共通語でも話す。
- (12) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々上海方言でも話す。
- (13) 外国語で話す。

その理由を教えてください。

13. あなたは公共の場（例えばスーパー、レストラン、美容院、遊園地な

ど)にいるとき、どの言語を使いますか。

- (1) 上海方言のみを使用する。
- (2) 共通語のみを使用する。
- (3) 上海方言以外の方言のみを使用する。
- (4) 基本的には上海方言で話すが、時々は共通語および上海方言以外の方言でも話す。
- (5) 基本的には上海方言で話すが、時々は共通語でも話す。
- (6) 基本的には上海方言で話すが、時々は上海方言以外の方言でも話す。
- (7) 基本的には共通語で話すが、時々は上海方言および上海方言以外の方言でも話す。
- (8) 基本的には共通語で話すが、時々は上海方言でも話す。
- (9) 基本的には共通語で話すが、時々は上海方言以外の方言でも話す。
- (10) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々は共通語および上海方言でも話す。
- (11) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々は共通語でも話す。
- (12) 基本的には上海方言以外の方言で話すが、時々は上海方言でも話す。
- (13) 外国語で話す。

その理由を教えてください。

-
14. あなたはグローバル化の影響での多言語の共存現象および母語(方言)の保持状況については、どのような考えがありますか。
-
-
-

ご協力どうもありがとうございました。

追記：本稿は、2008-2010 年度愛知大学国際問題研究所共同研究プロジェクトの助成による研究成果の一部である。記して感謝の意を表す。

概要

虞萍

2008年，上海市的常住人口已上升到1888.46万人，其中居住时间为半年以上的外来人口达到了517.45万人，若包括居住期间不到半年的外来人口，其总人口已达到了642.27万人。也就是说，目前，上海市三个人中就有一个是外来人口。由于几乎所有的外来人口都不懂更不会说上海方言，因此近年来上海市市民在日常生活的公共场合（例如超市、饭店、美容院、游乐园等）里不得不尽量降低使用上海方言的频率。与此同时，上海市的部分小学要求学生“在校内只能说普通话”，而且规定“若在课余时间说上海方言，便扣除品行分”。部分家长也积极配合学校的这种非母语化的教育方式，甚至在家里也开始不说上海话了。以上种种现象导致部分上海市户籍的儿童不能流利地说上海方言，近年更有部分儿童只会说普通话，几乎已经无法说上海方言了。

为了掌握不同时期的人口移动引起的上海方言的使用状况和受容意识的变化，笔者对史料进行了整理，并结合上海市区县的设立和城市的再建，于2009年5月1日、9月5、6日和2010年2月14、15、19日在上海市对50人（上海市市民30人〈市中心14人、郊区16人〉、外来人口20人）做了有关上海方言方面的民意调查和相关的采访。结果显示，在上海市刚成立不久的1930年代，虽然当时上海方言还未完全确立，但移居上海市的外来人口基本只在夫妻或同乡间说家乡方言，和子女或是在公共场合则改口说上海方言。出生在上海市的孩子几乎不会说父母的方言，他们将“上海方言”作为了自己的“母语”。随着1990年代后期外来人口的不断增加，部分生活在上海市不会讲普通话的老年人已经在语言上感到了不便，这一现象在他们的子女中也屡见不鲜。而对于1970年代以后出生的上海人来说，说普通话不是一种负担，他们更多的是对近年家庭外说上海方言的机会越来越少这一现象表示担忧。1990年以后的上海市的再建已经让更多市区的住民改变了以往将郊区住民看作是“上海市的乡下人”的这一想法，而过去因为不会讲上海方言而唯唯诺诺地、没有勇气称自己是“上海人”的郊区住民也因为了区别于蜂拥而来的外来人口以及自己所住的“县”已经改成了“区”等缘由而

理直气壮地称自己是“上海人”了。上海市的再建以及上海市房价的飙升使以往居住于市区的居民不得不搬往郊区，由于方言的不统一，昔日说上海方言的这些市民在郊区也说起了普通话。

另外，笔者将自身对上海市 20 个外来人口的调查结果以及上海社会科学院所做的民意调查的结果进行了对照分析比较，发现目前外来人口对上海市的受容状况还不太理想，并且现在往往是上海市市民在语言上附和着外来人口，在许多公共场合都避免说上海方言。

综上所述，由于人口移动造成的上海方言的弱化现象在现代中国已是一个渐渐浮出水面的问题了。同时，居住于上海市大多使用普通话的外来人口的母语的乖离现象也同样不可忽视。